

勝利争闘ジェット三里塚 / 臨調・行革粉碎 / 増税と行革 軍拡と改憲の超反動中曾根内閣打倒



公務員・公企体労働者への賃金抑制を許すな

体制的危機を深める日帝は、軍事大国化・改憲をはじめとする反動攻撃を激化させ、労働者人民に一切犠牲を転嫁することにより生きのびようとしている。

とりわけ、国鉄労働運動の暴力的解体と官公労働者への賃金抑制攻撃は、死活のかけた問題として全国鉄労働者を直撃しており、今こそ勤労千葉の路線のもとに多くの労働者を結集し、総力をあげて反撃の闘いに決起しよう。

米帝を襲う未曾有の危機

世界経済は深刻な危機に直面し、恐るべき戦争の危機をはらんで進行している。

その最大の要因は、米帝の未曾有の危機の激化である。米経済は一九三〇年以來といわれる不況が長期化し、大企業・銀行のあいつぐ倒産、とりわけ中南米・東欧の膨大な債務返済不能は国際金融恐慌寸前の事態にたち至り、史上空前の貿易赤字は保護主義・排外主義の台頭を生み出している。

米帝は米経済の危機が政治危機へと転化しはじめる中で、全世界を戦争と泥沼に叩きこむことで生きのびようとしている。

危機脱出をかけた 日帝の軍事大国化攻撃

その焦点が日帝である。

日米貿易戦争として火をふいた、日米両帝国主義の争闘戦の激化の中で、日本経済はますますい経済矛盾と財政破綻に叩きこまれ、倒産・失業のかつてない増大など、体制的危機は深刻な事態にたちいたっている。

米帝・レーガンの対日市場解放と防衛分担要求にゆさぶられながらも、軍拡路線以外に延命の道のない日帝・中曾根は、F16の三沢基地配備承認・防衛費一パーセント枠突破宣言・米への軍事技術提供宣言にみられるように、安保健衛問題での「聖域」をとりはらい、実践的軍事力をもつ軍事大国化攻撃を強めている。

労働者人民への犠牲の転嫁を許すな

増税・臨調・行革・改憲を掲げる中曾根政権は賃金凍結、老人医療・教科書の有料化、児童手当の制限、年金物価スライドの凍結、農業つぶしなど、労働者人民にすべての犠牲をおしつける一方で、一機百億円以上の戦闘機を大量に買いあげる軍備増強を行っている。

とりわけ政府・自民党は、赤字国債を際限なく

発行し、自ら招いた財政破綻を切りぬけるために、四・五八パーセントという物価上昇にもみたくない(民間賃上げ七・一パーセント)公務員賃金の人事院勧告を凍結した。もし昨年の値切り(三〇パーセント相当)に続いて本年も凍結されれば、公務員とその家族一千万人の死活問題であり、それは、公企体はもとより、民間の労働者全体の賃金を引き下げる攻撃なのである。

政府・自民党は、わが国鉄労働者に対し、仲裁実施で差をつけ、手当の削減を行ってきた。

すなわち、仲裁は実施するとしながらも「夏季手当、年末手当は旧ベース(支払わない)」というのである。さらに、年末手当を〇・〇六カットしたりえで、年度末手当〇・五を支払わないというのである。

つまり、年間〇・七八カ月分の賃金削減攻撃である。

「三里塚」「国鉄」決戦の爆発で 八三政治決戦に勝利しよう

人事院勧告・仲裁制度とは、公務員・公企体労働者から一方的にスト権を奪った代償として、政府自らがつくった制度であり、凍結・抑制の強行は「法治国家」自らを否定する暴挙である。

われわれは、秋年闘争を突破口に八三春闘、中江選挙闘争そして三里塚・国鉄決戦を全力で闘い抜き、八三年政治決戦に勝利しようではないか。

